

山田監督ゆかりの中村さん（戸田の医師）訪問

明治時代に国の医業開業試験に合格した初

の女性、熊谷市出身の荻野吟子（1851—1913）を描く映画「一粒の麦・荻野吟子の生涯」の制作が進んでいる。メガホンをとる山田火砂子監督（87）は、明治という舞台で、吟子ら女性たちの生きた姿を追ってきた。吟

子は熱い恋に生きた人だった」と語る。その山田さんが4月、戸田市本町の戸田中央総合病院で、首都圏で28の病院などを運営する戸田中央医療グループの中村隆俊会長(92)を訪問。ふたりは固い握手をした。なぜだったのか。(岸鉄夫)

女学院教頭だった1891年、濃尾地震で孤児となつた少女たちが春のために人質として売買されていることを知り、約20人を救出し滝乃川学園の前身となる施設を開設する。その場所が、東京・上野で幸婦人科医院を開業していく吟子の自宅だつた。

△三本杉岩
山田さんの映画に、「こんなシーンがある。志方を失い失意の吟子が瀬棚海岸の三本杉岩で海を眺めていると、見知らぬ老人から「医者は人の命を助ける立派な仕事だ。頑張れ」と励まされる。吟子は帰京して再出発を決意する。老人は中村市右衛門と名乗る。古戸五郎舟は、量販、招ぐ

「熱い恋に生きた女性」

△女医決意
吟子は利根川の水辺、熊谷市俵瀬の旧家出身。17歳で隣に嫁ぎ、19歳で実家に帰る。「夫から性病をうつされ、そのことを理由に離縁された。東京で入院したが医師は男性。この時の体験から女医になると決意した」と山田さ

吟子は利根川の水辺、熊谷市俵瀬の旧家出身。17歳で近隣に嫁ぎ、19歳で実家に帰る。「夫から性病をうつされ、そのことを理由に離縁された。東京で入院したが医師は男性。」この時の体験から女医になると決意した」と山田さ。

東京女子師範学校、私立医学校の好寿院を卒業し、決意してから15年後の1885年、女性として初の開業試験に合格。東京で産婦人科医院を開業した。

山田監督は09年、吟子とほぼ同じ時代に生きた石井筆子（1861—1944）の生涯を描いた「筆子・その愛」を制作した。筆子は華族の娘で、津田梅子らと欧米に留学

映画「一粒の麦・荻野吟子の生涯」制作進む

し、帰國後は女学校の校長を務め、近代女子教育の創始者のひとりとされる。筆子は死別した夫との間にできた知的障がいの娘を育てていたことから、知的障害児の生活施設を創設した石井亮（1867—1937）と、
◇廃娼運動
石井亮一は、筆子と結婚する前、立教大学を卒業し立教



握手する山田火砂子さん（左）と中村隆俊さん
—4月10日 豊田市

厳しい自然環境の中で
05年、志方は病死。吟
瀬棚で3年間 診療所を
たが、08年に帰京を決意
本所で医院を開業。13年
正2)、病気のため62歳
界した。

開設した前年に、吟子は同志社で新島襄の教えを受けたキリスト教伝道者の青年、志方之善と知り合い結婚。志方は翌年に「理想郷を建設する」と、北海道へ旅立つ。そのころ吟子は40歳、志方は27歳。

5年後、吟子は医院をたたみ、志方の後を追い北海道へ渡る。一時、今金町で志方と暮りし、1897年、瀬棚(現せたな町)で医院を開業。村長夫人ら町内の女性たちと女性の権利擁護を訴える活動を

徳は同志社大学の総長を務める海老名鉄正によりキリスト教の洗礼を受け、女性の権利擁護、廢娼運動の先頭に立ちており、亮一を応援した。

山田監督は「吟子が志方と結婚し、北海道へ行つたのはきっと熱い本当の恋をしたのだと思つ。そして吟子の物語を追つて、みんなつながつてゐると実感した」と言つ。案一や筆子、そして中村隆俊さんみんながつながつてゐる

隆俊さんは、せたな町で牛
れ、函館の高校から北海道大
学医学部へ進み医者になつ
た。市右衛門の孫である隆俊
さんは、兄と弟たちは3人とも
医者になり、東京と埼玉で成
功している。この兄弟によつ
ても三本杉弓は、家族のき
なの象徴だった。